

青森県報

第九百十五号

令和七年
五月十九日
(月曜日)

目 次

公 告

○県営土地改良事業計画の決定……………(農村整備課) ……一

○右 同……………(同) ……一

○右 同……………(同) ……二

○右 同……………(同) ……二

○都市計画の変更案の縦覧……………(都市計画課) ……二

出先機関

○土地改良区の清算人の就任……………(三八農林水産事務所) ……三

公安委員会

○運転免許取得者等教育の認定の取消……………(運転免許課) ……四

○運転免許取得者等検査の認定の取消……………(同) ……四

公 告

県営土地改良事業計画の決定

土地改良法(昭和二十四年法律第百九十五号)第八十七条第一項の規定により、吉川堰地区の県営土地改良事業(ため池等整備事業(用排水施設整備))計画を定めたので、同条第五項の規定により公告し、次のとおり縦覧に供する。

なお、この土地改良事業計画については、縦覧の期間満了の日の翌日から起算して

十五日以内に知事に対して審査請求をすることができる。

このほか、この土地改良事業計画が定められたことを知った日の翌日から起算して六月以内に、県を被告として(知事が被告の代表者となる。)、その取消しの訴えを提起することができる。ただし、縦覧の期間満了の日の翌日から起算して十五日以内に審査請求を行った場合には、土地改良事業計画の取消しの訴えは、その審査請求に対する裁決があつたことを知った日の翌日から起算して六月以内に提起しなければならないこととされている。

令和七年五月十九日

青森県知事 宮 下 宗一郎

一 縦覧に供する書類

土地改良事業計画書の写し

二 縦覧の期間

令和七年五月二十日から同年六月九日まで

三 縦覧の場所

青森県庁農村整備課ウェブページ

県営土地改良事業計画の決定

土地改良法(昭和二十四年法律第百九十五号)第八十七条第一項の規定により、悪戸・小沢地区の県営土地改良事業(畑地帯総合整備事業(農業用排水施設整備)(農道整備))計画を定めたので、同条第五項の規定により公告し、次のとおり縦覧に供する。

なお、この土地改良事業計画については、縦覧の期間満了の日の翌日から起算して十五日以内に知事に対して審査請求をすることができる。

このほか、この土地改良事業計画が定められたことを知った日の翌日から起算して六月以内に、県を被告として(知事が被告の代表者となる。)、その取消しの訴えを提起することができる。ただし、縦覧の期間満了の日の翌日から起算して十五日以内に審査請求を行った場合には、土地改良事業計画の取消しの訴えは、その審査請求に対する裁決があつたことを知った日の翌日から起算して六月以内に提起しなければならないこととされている。

県営吉川堰地区土地改良事業計画書

た め 池 等 整 備 事 業

(用 排 水 施 設 整 備)

青 森 県

目

次

第 1 章	目 的	1
第 2 章	地 域 及 び 地 積	1
第 1 節	地 域	1
第 2 節	地 積	1
第 3 章	現 況	2
第 1 節	気 象	2
1.	一 般 気 象	2
2.	特 殊 気 象	2
第 2 節	土 地 状 況	3
1.	地形、土壌及び浸食の程度	3
2.	土地利用の状況	4
3.	土地所有の状況	4
第 3 節	水 利 状 況	5
1.	用 水 状 況	5
2.	排 水 状 況	7
3.	河 川 状 況	8
4.	想定被害状況	8
第 4 節	道 路 現 況	8
1.	道 路 概 況	8
2.	主要道路一覧表	8
第 5 節	地域農業の概況	9
1.	産業別就業人口	9
2.	経営耕地広狭別農家数及び専兼別農家数	9
3.	動力農機具及び主要家畜頭数	10
4.	主要作物作付状況	10
5.	農 業 の 動 向	11
第 6 節	地域環境の概況	11
第 4 章	一 般 計 画	12
第 1 節	事業計画の要旨	12
1.	要 旨	12
2.	事 業 別 面 積	12

第 2 節	営農計画及び土地利用計画	13
1.	営農計画の概要	13
2.	土 地 利 用 区 分	13
3.	作 付 方 式	13
4.	生 産 計 画	13
5.	労働改善計画	13
第 3 節	用 水 計 画	14
1.	計 画 基 準 年	14
2.	計画かんがい方式	14
3.	計画用水系統	14
4.	計画用水量	14
5.	水 源 計 画	16
第 4 節	排 水 計 画	17
1.	計画基準雨量	17
2.	計画排水方式	17
3.	計画排水系統	17
4.	計画排水量	17
5.	排 水 対 策	17
6.	た ん 水 検 討	17
第 5 節	道 路 計 画	17
1.	道 路	17
2.	路 線 配 置 図	17
第 6 節	洪水調節計画	18
1.	計画基準雨量	18
2.	計画洪水量及び調節量	18
3.	貯 水 池	18
4.	洪水調節検討	18
5.	管 理 計 画	18
第 7 節	農用地整備計画	19
1.	区 画 整 理	19
2.	暗 渠 排 水	19

3.	客 土	19
4.	農地保全	19
第8節	老朽ため池改修計画	20
1.	洪水吐改修計画	20
2.	堤体補強計画	20
3.	取水施設改修計画	20
第5章	主要工事計画	20
第1節	用水施設	20
1.	貯水池	20
2.	頭首工	20
3.	揚水機	20
4.	用水路	21
第2節	排水施設	21
1.	排水水門	21
2.	排水機	21
3.	排水路	21
4.	その他排水施設	21
第3節	道路	22
1.	道路の総括表	22
2.	道路主要構造物	22
第4節	洪水調節施設	22
1.	貯水池	22
2.	頭首工及び導水路	22
第5節	農用地整備施設	23
1.	区画整理	23
2.	暗渠排水	23
3.	客土	23
4.	除礫	23
5.	農地保全	23
第6節	老朽ため池改修施設	24
1.	貯水池	24
2.	堤体補強施設	24

第6章	附帯工事計画	24
第7章	工事の着手及び完了の予定時期	24
第8章	環境との調和への配慮	24
第9章	換地計画の概要	24
第1節	換地計画を作成する上での基本的な考え方	24
第2節	換地区の設定	24
1.	換地区の名称・所在・面積	24
2.	換地区を設定する理由	24
第3節	換地計画樹立の基本方針	25
1.	従前の土地の地積の基準	25
2.	用途別予定地積	25
3.	農用地集団化の方針	25
4.	非農用地換地の方法	25
第4節	土地の評価及び清算の方法	25
1.	評価の方法	25
2.	清算の方法	25
第5節	換地計画樹立の年度計画	25
第6節	換地処分の特則	25
第10章	事業費の総額及び内訳	26
第11章	効 用	26
第12章	関連する事業	27
第13章	現況・計画図面	27

第 1 章 目 的

本地区は、弘前市西部に位置し、一級河川岩木川から吉川堰（頭首工）より、かんがい用水と防火用水を使用目的として取水されており、地域営農及び防災において、重要な農業水利施設となっている。

大雨時には雨水及び土砂等が隧道内部に流れ込み、壁面脚部の岩盤崩落が発生し、崩落岩の堆積により水位が上がり、さらなる崩落が誘発されている状況である。

加えて、度重なる地震の影響と風化の進行も相まって、天井及び壁面の岩盤崩落が複数個所で発生し、一部で隧道上部の地山に吸出しが原因と見られる陥没が生じているなど、隧道本体の安全性が著しく低下し、非常に危険な状況となっており、隧道が崩壊した場合、農地や農作物、農業用施設に甚大な被害を与えるおそれがある。

このまま状況を放置した場合、隧道内部の崩落及び隧道上部に位置する樹園地の陥没が進行し、崩落した堆積岩の撤去作業時の人的事故のほか、樹園地陥没による農地や農作物、農業用施設に甚大な被害が生じ、さらには下流集落への防火用水の供給が不能となる。

このため、本事業により整備を行うことにより、災害を未然に防止するとともに、かんがい用水及び防火用水の安定供給が可能となり、農業生産の維持及び農村地域の防災力の向上を図るものである。

第 2 章 地域及び地積

第 1 節 地 域

（第 1 表）

地 域
弘前市

第 2 節 地 積

（令和 6 年 7 月現在）（第 2 表）

現状地目 市町村名	田 (ha)	畑 (ha)	原 野 (ha)	山 林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考
弘 前 市	36.9	—	—	—	—	36.9	権利関係調査簿

第 3 章 現 況

第 1 節 気 象

1. 一般気象

(第3表-1)

観 測 所 名	岳観測所	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備 考
観 測 期 間	平成26年～令和 5 年	5月～9月	10月～4月		
平 均	気 温 (℃)	20.4	4.5	11.1	※弘前地域気象観測所データ使用
降 水 量	平 均 (mm)	697	991	1,688	(平均気温、根雪期間、無霜期間、最多風向)
	基 準 年 (mm)	-	-	-	
降 水 日 数	平 均 (日)	54	130	184	
	基 準 年 (日)	-	-	-	
根 雪 期 間		12 月 18 日 ～	3 月 20 日	93 日間	
無 霜 期 間		5 月 13 日 ～	10 月 18 日	160 日間	
最 多 風 向		SW	最大風速 (風 向)	15 m/s (SW)	最多風向発生時期 9月～11月 最大風速発生年月日 平成28年4月17日

2. 特殊気象

(第3表-2)

観 測 所 名	第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位			備 考
岳 観 測 所	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	
昭和 51 年～令和 5 年																
最 大 日 雨 量 (mm)	253	R4. 8. 9	1/555	198	S52. 8. 5	1/151	135	H24. 7. 16	1/12	129	H25. 10. 16	1/10	124	H19. 11. 12	1/8	
最 大 時 間 雨 量 (mm)	67	H24. 9. 5	—	61	H30. 8. 5	—	55	H25. 8. 9	—	48	H28. 7. 31	—	45	R1. 8. 28	—	
最 大 4 時 間 雨 量 (mm)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
最 大 連 続 雨 量 (mm)	446	R4. 8. 7 ～ R4. 8. 12	1/472	330	H26. 1. 8 ～ H26. 2. 23	1/48	318	H14. 8. 5 ～ H14. 8. 15	1/41	259	H25. 8. 24 ～ H25. 9. 5	1/13	228	H19. 11. 11 ～ H19. 11. 24	1/7	
最 大 連 続 干 天 日 数 (日)	34	R1. 7. 13 ～ R1. 8. 15	1/135	31	H2. 5. 9 ～ H2. 6. 8	1/62	29	H12. 5. 29 ～ H12. 6. 26	1/29	27	S59. 7. 26 ～ S59. 8. 21	1/18	24	H11. 7. 31 ～ H11. 8. 23	1/8	

第 2 節 土地状況

1. 地形、土壌及び浸食の程度

(第4表-1-1)

地 目	田						畑						受益地標高 (m)		備 考
	1/1,000 未満	1/1,000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	1/11.5 以上	計	3° 未満	3° ～ 8°	8° ～ 15°	15° ～ 20°	20° 以上	計	最高	最低	
面 積 (ha)	—	36.9	—	—	—	36.9	—	—	—	—	—	—	89.0	70.0	
比 率 (%)	—	100.0	—	—	—	100.0	—	—	—	—	—	—			

(第4表-1-2)

項 目 土壌統 (区) 名	土 壤 統 (区) 区 分 一 覧 表							面 積 (ha)	備 考
	土 壤 断 面								
	色	腐 植 層	礫 層	土 性			泥炭層黒泥層 及びグライ層		
				表 層	土 下 層	性 土 層			
				一 層	二 層	三 層			
高根統 灰褐色土壌 壤土型	10YR4/2 …表土	富む… 表土	なし	CL	SiCL	SiCL	なし	22. 2	
	5Y4/1 …下層	すこぶる富 む…下層							
大畑統 灰褐色土壌 砂土型	2. 5Y4/2 …表土	含む… 表土	なし	CL	FSL	LCoS	なし	4. 2	
	2. 5Y5/2 …下層	なし							
大鰐統 礫層土壌 斑鉄盤層型	10YR4/2 …表土	富む… 表土	なし	SCL	SCL	—	なし	10. 5	
	10YR3/2 …下層	富む… 下層							
計								36. 9	

2. 土地利用の状況

(令和6年7月現在)

(第4表-2)

市町村名	土地利用別	耕 地						原 野 (ha)	山 林 (ha)	そ の 他 (ha)	計 (ha)	備 考	
		水 田 (ha)	畑										小 計 (ha)
			普 通 畑 (ha)	果 樹 園 (ha)	牧 草 地 (ha)	茶 園 (ha)	そ の 他 (ha)						
弘前市		36.9	—	—	—	—	—	36.9	—	—	36.9		

3. 土地所有の状況

(令和6年7月現在)

(第4表-3)

区 分	所有別	個 人 有	共 有	国 有	市 町 村 有	計	備 考
面 積 (ha)		36.9	—	—	—	36.9	
受 益 者 数 (人)		98	—	—	—	98	
筆 数 (筆)		421	—	—	—	421	

第 3 節 水利状況

1. 用水状況

本地区の用水は、一級河川岩木川を水源とし、吉川堰（頭首工）より取水している。

(1) 用水系統

現況用水系統模式図（次頁参照）

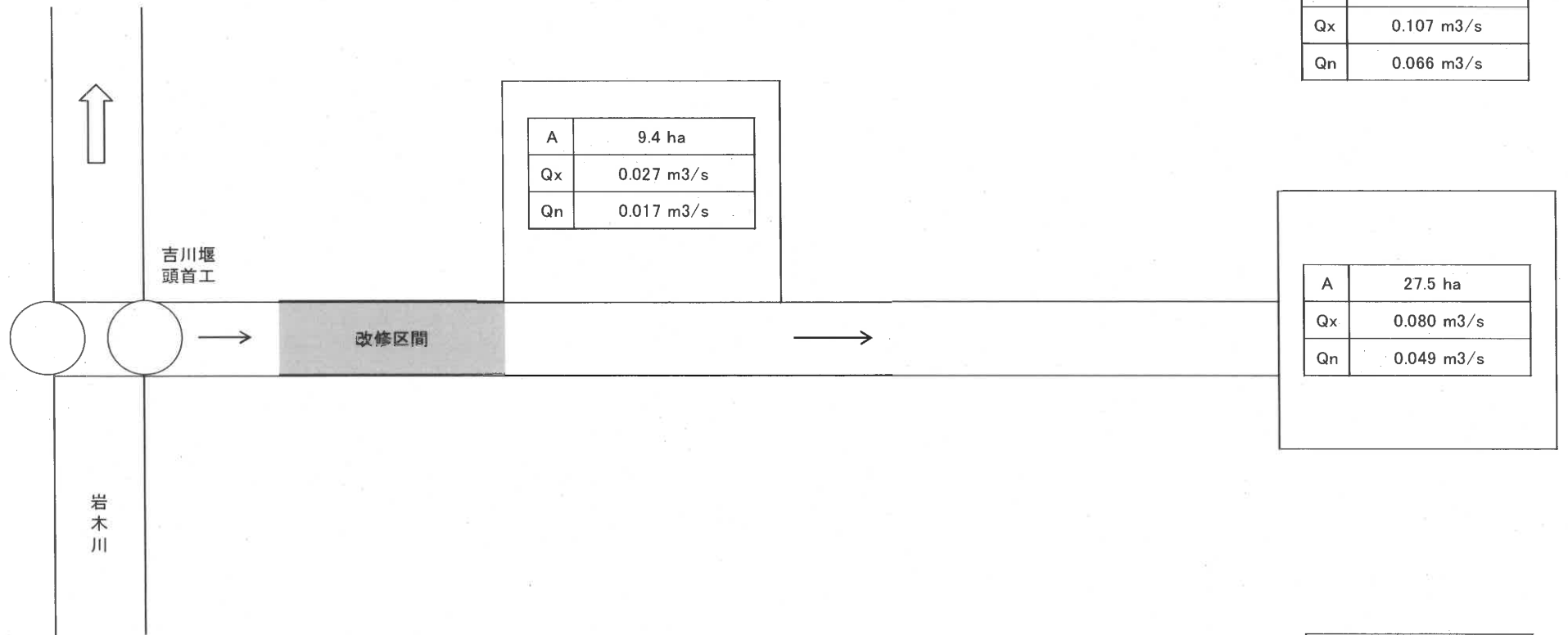
(2) 用水施設

(ア) 取水方法一覧表

（第5表－1）

項 目 施設名	か ん が い 面 積						計		水 利 権		慣行水利権		延 取 水 量	備 考
	500ha 以上	500～100ha		100ha 未満										
	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	m³/s	箇所	m³/s	m³/s	
貯 水 池	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
井 堰	-	-	-	-	1	36.9	1	36.9	-	-	1	0.500	0.500	慣行未届け
自 然 取 水 口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
揚 水 機	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
そ の 他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
計	-	-	-	-	1	36.9								

現 況 用 水 系 統 模 式 図



全 体	
A	36.9 ha
Qx	0.107 m ³ /s
Qn	0.066 m ³ /s

凡 例	
A	面積
Qx	代掻き期最大
Qn	普通期最大

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-2)

項 目 施設名	施 設 名 又は箇所数	受益面積 (ha)	構 造	規 模	新 設 年 又は更新年	改修を必要 とする理由	備 考
貯 水 池							
井 堰							
自 然 取 水 口							
揚 水 機							
用 水 路	吉川堰	36.9	水路トンネル	L=376m	昭和25年	崩落の危険 が顕著	
そ の 他							

(3) 用水に関する被害状況

(ア) 用水不足による被害状況

該当なし

(イ) その他の被害状況

該当なし

2. 排水状況

(1) 排水系統

該当なし

(2) 排水施設

該当なし

(3) 排水に関する被害状況

該当なし

3. 河川状況

(1) 河川状況
該当なし

(2) 洪水に関する被害状況
該当なし

4. 想定被害状況

(第5表-9)

想 定 被 害 面 積 (ha)				想 定 被 害 額 (千円)						備 考
田	畑	その他	計	作 物	農 地	農業用 施 設	公 共 施 設	家 屋 その他	計	
—	—	0.4	0.4	26,352	59,400	18,091	—	—	103,843	

第 4 節 道路現況

1. 道路概況
該当なし

2. 主要道路一覧表
該当なし

第 5 節 地域農業の概況

1. 産業別就業人口

総務省統計局＞統計データ＞令和 2 年国勢調査より

(第 7 表－1)

項 目	総 数	農 業	林 業	漁 業	鉱 業	建設業	製造業	電気ガス 熱 供 給 水 道 業	運 輸 通信業	卸 売 小売業 飲食店	金 融 保険業	不 動 産 業	サ-ビス業	公 務	その他	備 考
市町村名	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	
弘前市	82,826	10,844	71	2	14	5,068	7,913	346	3,432	16,839	1,519	975	28,038	3,777	3,988	
比率 (%)	100.0	13.1	0.1	0.0	0.0	6.1	9.6	0.4	4.1	20.3	1.8	1.2	33.9	4.6	4.8	

2. 経営耕地広狭別農家数及び専兼業別農家数

2020農林業センサス II 農業経営体(総数) 3経営耕地面積規模別経営体数 7経営耕地の状況

2020農林業センサス自給的はVI総農家等 2経営耕地のある農家数と経営耕地面積

(第 7 表－2)

区 分 市町村名	農 家 総 戸 数 (戸)	経 営 耕 地 広 狭 別 農 家 数(戸)											1戸当たり平均農用地面積 (ha)						専兼業別農家数(戸)			備 考
		を 例 外 規 定 の 適 用 受 け る も の	0.3	0.5	1.0	1.5	2.0	3.0	5.0	10.0	20.0	自 給 的 農 家	田	畑	樹 園 地	小 計	草 地	計	専 業	兼 業		
			0.3 ～ 0.5	0.5 ～ 1.0	1.0 ～ 1.5	1.5 ～ 2.0	2.0 ～ 3.0	3.0 ～ 5.0	5.0 ～ 10.0	10.0 ～ 20.0	20.0 以上									第 一 種	第 二 種	
弘前市	5,205	42	422	1,022	852	668	891	536	156	43	25	548	0.53	0.12	1.20	1.85	0.01	1.86	-	-	-	
比率 (%)	100.0	0.9	8.1	19.6	16.4	12.8	17.1	10.3	3.0	0.8	0.5	10.5	28.5	6.5	64.5	99.5	0.5	100.0	-	-	-	

3. 動力農機具及び主要家畜頭数

2020農林業センサスⅡ農業経営体

(第7表-3)

市町村名	項目														備考
	動力農機具								主要家畜						
	農用 トラクター		コンバイン		動力田植機		乗用型 スプレッダー		乳用牛		肉用牛		豚		
	数量 (台)	戸数 (戸)	数量 (台)	戸数 (戸)	数量 (台)	戸数 (戸)	数量 (台)	戸数 (戸)	数量 (頭)	戸数 (戸)	数量 (頭)	戸数 (戸)	数量 (頭)	戸数 (戸)	
弘前市									X	2	37	5	-	-	
100戸当たり数量(台, 頭)									-		0.7		-		
利用戸数割合(%)									0.0		0.1		-		

4. 主要作物作付状況

農林水産省HP>統計情報>農業生産に関する統計>作物統計>面積調査>市町村別データ>令和5年(e-Stat)>耕地面積>青森県 (第7表-4)

市 町 村 名		弘前市		作付率 (%)	備考
総耕地面積 (ha)		13,900			
区 分		作付 面積 (ha)	単位面積 当たり収量 (kg/10a)		
作 物 名					
田	水稻	2,830	600	71.5	本地面積全体 13,750 ha
	小計	2,830		71.5	
畑	小麦	63	254	0.6	田 3,960 ha
	大豆	715	75	7.3	
	そば	47	19	0.5	畑 9,790 ha
	りんご	6,172	—	63.0	
	その他作物	3,923		40.1	
	小計	10,920		111.5	
	計	13,750		100.0	
市町村別延べ作付率 (％)		100.0			

5. 農業の動向

農林水産省HP > 組織・政策 > 統計情報 > 農林業センサス > 2020年農林業センサス > 2020年農林業センサス報告書 > 第1巻 都道府県別統計書（全47冊） 内のデータによる。

（第7表－5）

区分	項目	農 家		土 地		主 要 作 物				大 家 畜			動 力 農 機 具			地域指定等	備 考	
			B	A		B	A	作 物 名	B	A	家 畜 名	B	A	農 機 具 名	B			A
変化の状況	(C年を100とする指数)	総農家数	87	72	耕地	98	86	水 稻	93	67	乳用牛	-	-	農 用 トラクター	97	-	下表参照	A: 令和2年 (2020年世界 農林業センサス) B: 平成27年 (2015年世界 農林業センサス) C: 平成22年 (2010年世界 農林業センサス)
		専業農家数	117	-	田	98	81	小 麦	105	5	肉用牛	0	-	コンバイン	88	-		
		第一種兼業農家数	64	-	畑	138	161	大 豆	153	110	豚	-	-	動力田植機	86	-		
		第二種兼業農家数	83	-	樹園地	96	84	その他作	101	104				乗用型ステードスフレイヤー	0	-		
		農業従事者数	84	64	草地	19	86											
変 化 の 由		農家人口の他産業への流動			農地転用等			米作より畑作へ転換						農業の機械大型化				

地域指定

	農業振興地域	野菜指定産地	果樹濃密生産団地	酪農肉用牛生産近代化計画	山村振興地域	過疎地域
弘前市	H27	H16 (夏秋トマト)	H2	—	S42 (旧岩木町) S44 (旧相馬村)	H12 (旧相馬村)

第 6 節 地域環境の概況

本地域は青森県の南西部に位置し、東に奥羽山脈の八甲田連峰を望み、西に「津軽富士」と呼ばれる青森県最高峰の霊峰岩木山を有し、南には世界遺産に登録されている白神山地が連なり、山々に抱かれた平野部では、白神山地に源を発した岩木川が約30kmにわたり北流している。また、平野周辺部の小高い丘陵地域には、青森県のりんごの約4割を生産する樹園地が広がっており、さらにその地域を取りまくように山林地帯が伸び、緑豊かな自然環境に恵まれている。

なお、本地域においては、特に配慮すべき貴重な動物は確認されていない。

第 4 章 一般計画

第 1 節 事業計画の要旨

1. 要 旨

吉川堰地区は、大雨時には雨水及び土砂等が隧道内部に流れ込み、壁面脚部の岩盤崩落が発生し、崩落岩の堆積により水位が上がり、さらなる崩落が誘発されている状況である。

加えて、度重なる地震の影響と風化の進行も相まって、天井及び壁面の岩盤崩落が複数個所で発生し、一部で隧道上部の地山に吸出しが原因と見られる陥没が生じているなど、隧道本体の安全性が著しく低下し、非常に危険な状況となっており、隧道が崩壊した場合、農地や農作物、農業用施設に甚大な被害を与えるおそれがある。

このまま状況を放置した場合、隧道内部の崩落及び隧道上部に位置する樹園地の陥没が進行し、崩落した堆積岩の撤去作業時の人的事故のほか、樹園地陥没による農地や農作物、農業用施設に甚大な被害が生じ、さらには下流集落への防火用水の供給が不能となる。

このため、本事業により整備を行うことにより、災害を未然に防止するとともに、かんがい用水及び防火用水の安定供給が可能となり、農業生産の維持及び農村地域の防災力の向上を図る。

2. 事業別面積

(第 8 表)

土地利用区分 事業目的	水 田 (ha)	畑						計 (ha)	備 考
		普通 畑 (ha)	果 樹 園 (ha)	牧 草 地 (ha)	茶 園 (ha)	そ の 他 (ha)	小 計 (ha)		
用 水 改 良	36.9	-	-	-	-	-	-	36.9	

第 2 節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

本事業の実施により災害を未然に防止し、農業経営の安定を図る。

2. 土地利用区分

(第9表-1)

土地利用区分 区 分	水 田 (ha)	畑					小 計 (ha)	原 野 (ha)	山 林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考
		普通畑 (ha)	牧草地 (ha)	果樹園 (ha)	茶 園 (ha)	その他 (ha)						
現 況	36.9	—	—	—	—	—	36.9	—	—	—	36.9	
計 画	36.9	—	—	—	—	—	36.9	—	—	—	36.9	

3. 作付方式

田：水 稲 A= 36.9 ha

4. 生産計画

該当なし

5. 労働改善計画

該当なし

第 3 節 用水計画

1. 計画基準年

昭和55年

2. 計画かんがい方式

湛水かんがい方式 かんがい期間 : 5月上旬～9月上旬 (代掻期間 5月上旬～5月下旬 15日間)

3. 計画用水系統

計画用水系統模式図 (次頁参照)

4. 計画用水量

(1) かんがい用水

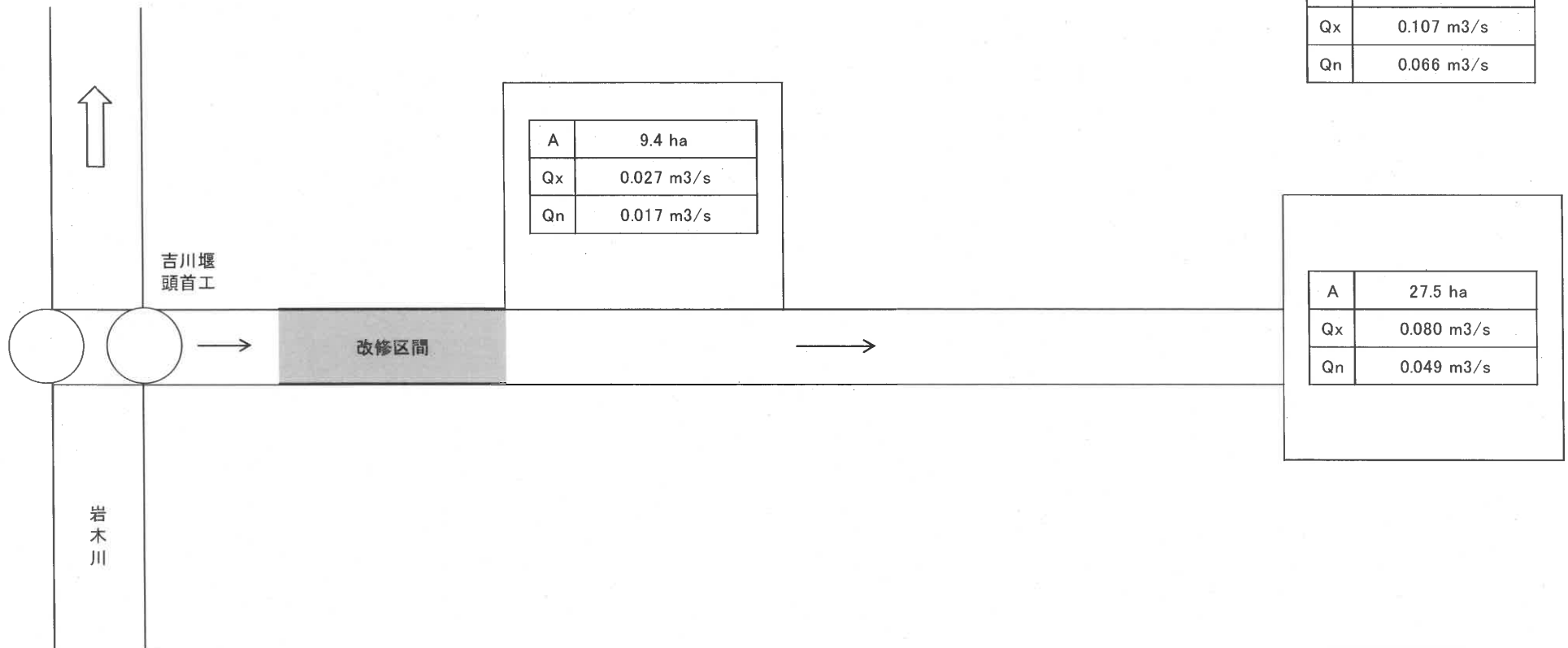
(第10表-1-1)

項 目 系統名	種 別	面 積 (ha)	水田かんがい			水 田 畑 利 用			畑 地 かん がい			そ の 他		消 費 水 量 (m³/s)	損 失 率 (%)	粗用水量		備 考	
			普通期	代かき期	面 積 (ha)	一日 平均	平均 間断	面 積 (ha)	一日 平均	平均 間断	面 積 (ha)	計 画 平均	単 位 用水量			面 積 (ha)	平 均		最 大
			計 画 平均	単 位 用水量		計 画 平均	単 位 用水量		計 画 平均	単 位 用水量		計 画 平均	単 位 用水量						
吉川堰	農業用水	36.9	13.0	140	36.9	—	—	—	—	—	—	—	—	代 0.092 普 0.052	15	0.066	0.107		

(2) 営農飲雑用水

該当なし

計 画 用 水 系 統 模 式 図



凡 例	
A	面積
Qx	代掻き期最大
Qn	普通期最大

5. 水源計画

(1) 水利用計画

該当なし

(2) 用水対策

(ア) 貯水池

該当なし

(イ) 井堰及び自然取水口

該当なし

(ウ) 揚水機

該当なし

(エ) 用水路

(第10表-6)

項 目 名 称	かんがい面積 (ha)	最大通水量 (m ³ /s)	延 長 (m)	構 造	備 考
吉川堰	36.9	0.107	376	コンクリート装工トンネル	

(オ) その他の水源施設

該当なし

(3) 水温水質

該当なし

第 4 節 排水計画

1. 計画基準雨量
該当なし

2. 計画排水方式
該当なし

3. 計画排水系統
該当なし

4. 計画排水量
該当なし

5. 排水対策

(1) 排水水門
該当なし

(2) 排水機
該当なし

(3) 排水路
該当なし

(4) その他
該当なし

6. たん水検討
該当なし

第 5 節 道路計画

1. 道 路
該当なし

2. 路線配置図
該当なし

第 6 節 洪水調節計画

1. 計画基準雨量
該当なし

2. 計画洪水量及び調節量
該当なし

3. 貯水池
該当なし

4. 洪水調節検討

(1) 河川改修計画との関係
該当なし

(2) 洪水調節が下流に及ぼす影響
該当なし

(3) 計画基準雨量以外の降雨についての検討
該当なし

5. 管理計画

(1) 管理機構
該当なし

(2) ダム管理操作上の各種基準
該当なし

(3) 洪水調節要領
該当なし

第 7 節 農用地整備計画

1. 区画整理

(1) 区画の形状
該当なし

(2) 表土扱い
該当なし

(3) 末端道水路配置図
該当なし

2. 暗渠排水

(1) 暗渠排水
該当なし

(2) 心土破碎
該当なし

3. 客土
該当なし

4. 農地保全

(1) 防災林
該当なし

(2) 排水工
該当なし

(3) 浸食（崩壊）防止工
該当なし

第 8 節 老朽ため池改修計画

1. 洪水吐改修計画
該当なし
2. 堤体補強計画
該当なし
3. 取水施設改修計画
該当なし

第 5 章 主要工事計画

第 1 節 用水施設

1. 貯水池
該当なし
2. 頭首工
該当なし
3. 揚水機
該当なし

4. 用水路

(第15表-4)

項目 水路名	かんがい 面積 (ha)	通水量 (m³/s)	延長 (m)			構造	勾配	主要構造物	備考
			開きよ	トンネル その他	計				
吉川堰	36.9	0.107	—	376	376	コンクリート装工 トンネル	1/3000	—	

第2節 排水施設

1. 排水水門

該当なし

2. 排水機

該当なし

3. 排水路

該当なし

4. その他排水施設

該当なし

第 3 節 道 路

1. 道路の総括表
該当なし

2. 道路主要構造物
該当なし

第 4 節 洪水調節施設

1. 貯水池
該当なし

2. 頭首工及び導水路

(1) 頭首工
該当なし

(2) 導水路
該当なし

第 5 節 農用地整備施設

1. 区画整理
該当なし

2. 暗渠排水

(1) 暗渠排水
該当なし

(2) 心土破碎
該当なし

3. 客 土
該当なし

4. 除 礫
該当なし

5. 農地保全

(1) 防災林
該当なし

(2) 排水路
該当なし

(3) 浸食防止工
該当なし

第 6 節 老朽ため池改修施設

1. 貯水池
該当なし

2. 堤体補強施設
該当なし

第 6 章 附帯工事計画 該当なし

第 7 章 工事の着手及び完了の予定時期

着 手	令和 7 年度	着工予定
完 了	令和 12 年度	完了予定

第 8 章 環境との調和への配慮

施工区域内で貴重な動植物を発見した場合は、影響のない場所に移動又は移植し保護に努める。

第 9 章 換地計画の概要

第 1 節 換地計画を作成する上での基本的な考え方
該当なし

第 2 節 換地区の設定

1. 換地区の名称・所在・面積
該当なし

2. 換地区を設定する理由
該当なし

第 3 節 換地計画樹立の基本方針

1. 従前の土地の地積の基準
該当なし

2. 用途別予定地積
該当なし

3. 農用地集団化の方針
該当なし

4. 非農用地換地の方法
該当なし

第 4 節 土地の評価及び清算の方法

1. 評価の方法
該当なし

2. 清算の方法
該当なし

第 5 節 換地計画樹立の年度計画 該当なし

第 6 節 換地処分の時期に関する特則 該当なし

第 1 0 章 事業費の総額及び内訳

(第 2 2 表)

区 分	事業費 (千円)	備 考
工事費	625,000	令和 6 年度単価
測量試験費	45,000	
用地買収補償費	2,000	
事務的経費	33,600	
計	705,600	

第 1 1 章 効 用

(第 2 3 表)

区分 \ 項目	年総効果（便益）額 (千円)	年増加農業所得額 (千円)	備 考
作物生産効果	26,668	26,668	食料の安定供給の確保に関する効果
営農経費節減効果	△ 3,753		食料の安定供給の確保に関する効果
維持管理費節減効果	△ 1,403	51	食料の安定供給の確保に関する効果
災害防止効果	5,244		農業の持続的発展に関する効果
地域用水効果（防火用水）	6,455		農村の振興に関する効果
国産農産物安定供給効果	5,445		その他効果
計	38,656	26,719	令和 6 年度単価

< 参 考 >

総 費 用 : 663,812 千円
 総 便 益 額 : 807,326 千円
 総費用総便益比 : 1.21

第 1 2 章 関連する事業
該当なし

第 1 3 章 現況・計画図面

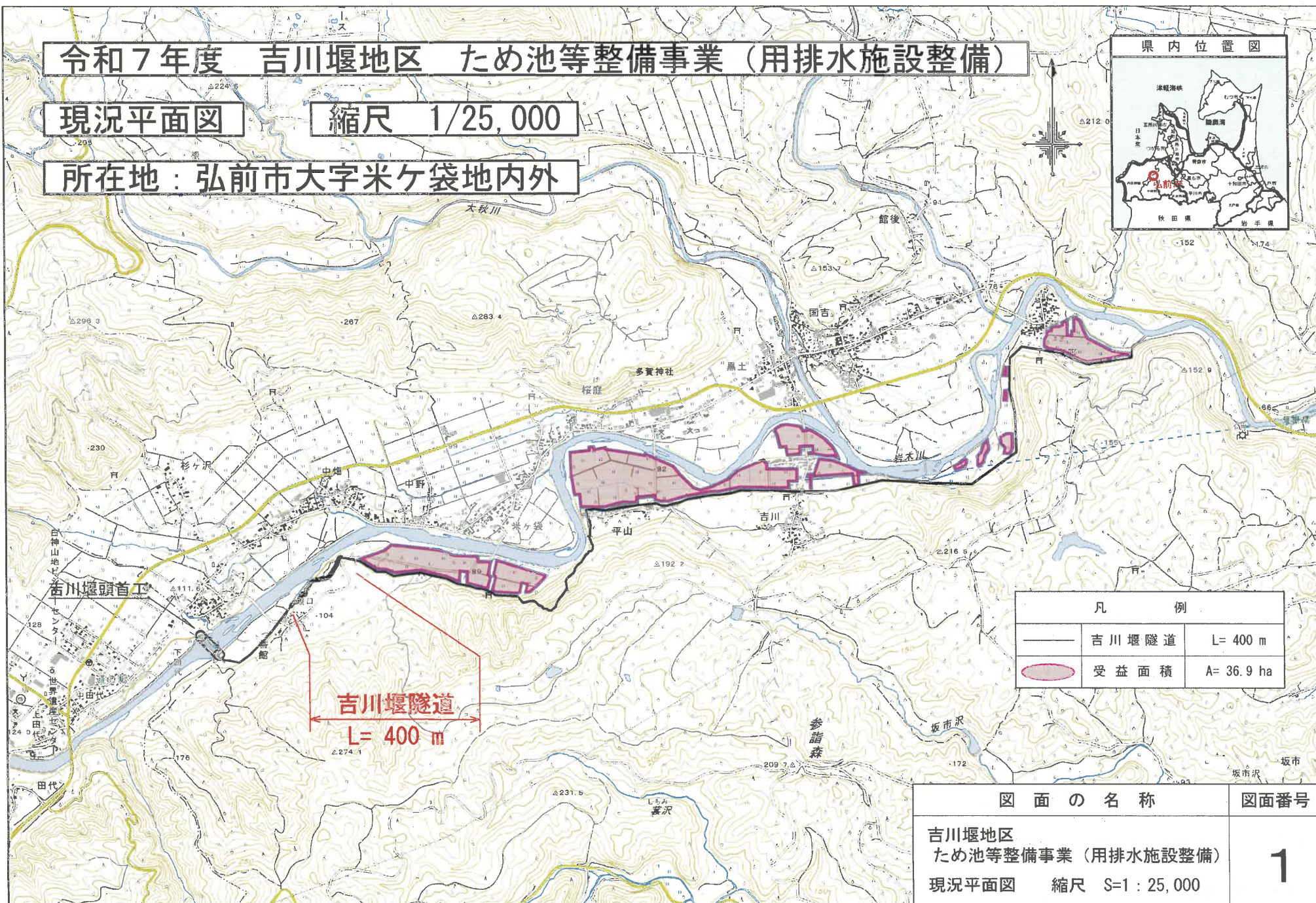
- | | | | |
|-------------------|-----------|---|---|
| 1. 現況平面図 | ・ ・ ・ ・ ・ | 別 | 添 |
| 2. 計画平面図及び土地利用計画図 | ・ ・ ・ ・ ・ | 別 | 添 |
| 3. 主要構造図 | ・ ・ ・ ・ ・ | 別 | 添 |

令和7年度 吉川堰地区 ため池等整備事業（用排水施設整備）

現況平面図

縮尺 1/25,000

所在地：弘前市大字米ヶ袋地内外



凡 例		
	吉川堰隧道	L= 400 m
	受益面積	A= 36.9 ha

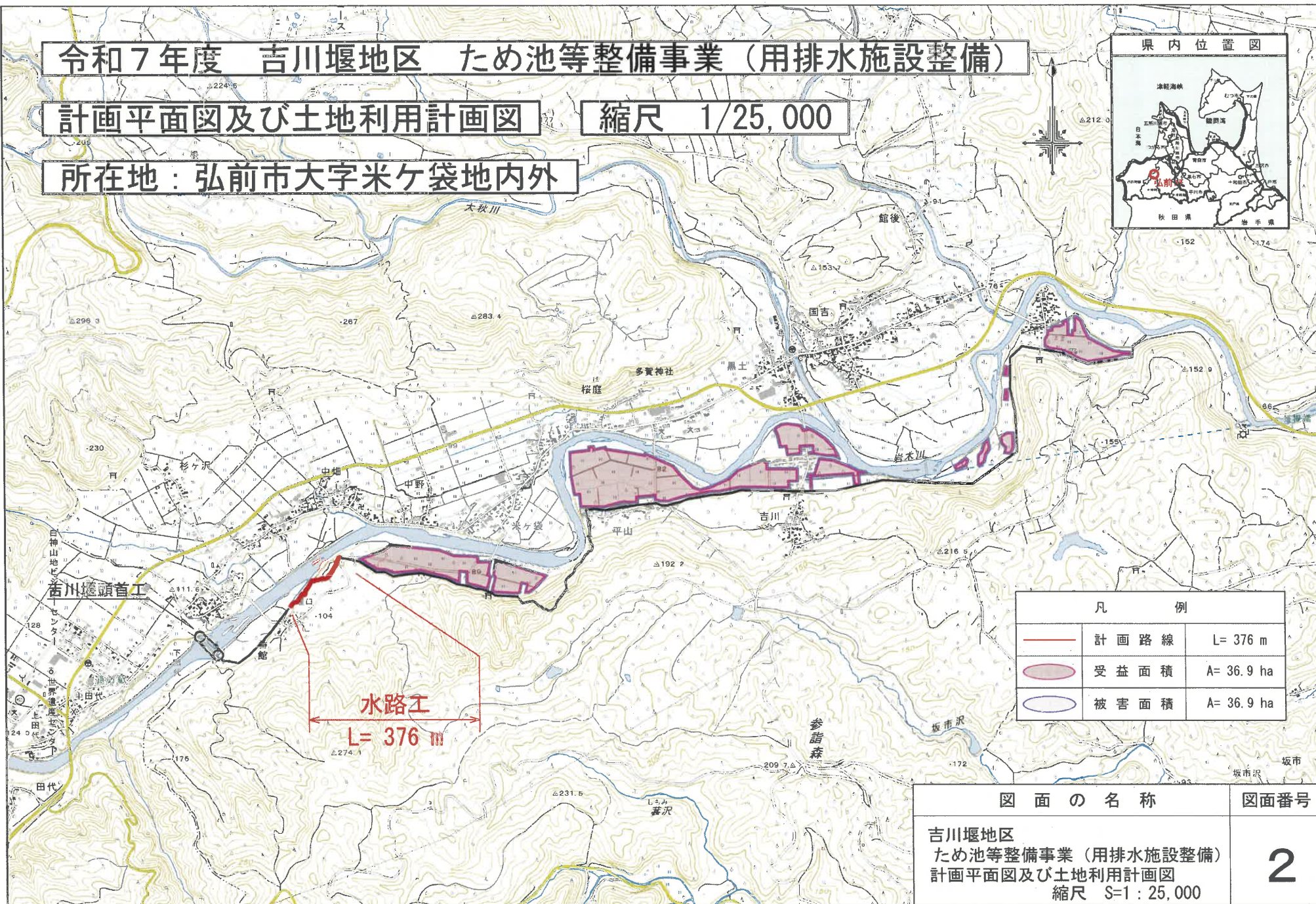
図 面 の 名 称	図面番号
吉川堰地区 ため池等整備事業（用排水施設整備） 現況平面図 縮尺 S=1 : 25,000	1

令和7年度 吉川堰地区 ため池等整備事業（用排水施設整備）

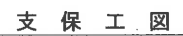
計画平面図及び土地利用計画図

縮尺 1/25,000

所在地：弘前市大字米ヶ袋地内外



縮尺 S=1:30



掘削・覆工計画図